重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき	歩行者や自転車が安全に移動できる道路整備がされている	
施策名	歩行者や自転車が安全に移動できる道路整備を推進する	No.42

年度	平成28年度
責任部長	建設部長
主担当課長	道路課長
関係課	公園緑地課、維持課、道水路管理課、都市計画課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
徒歩や自転車で道路を安心して移動できると思う人の割合（%）	↗	26.8	27.3	31.8	32.4	35.6	35.4	34.4
		35.4	36.2	35.5	37.6	38.5		41.9
歩行者・自転車関連の交通事故件数（件）	↘	1,002	986	965	904	955	859	902
		859	862	843	708	730		803

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

自転車は、日常生活における身近な移動手段やサイクリング等のレジャー手段として多くの人々に利用されている。近年では、健康や環境への意識の高まりを背景に利用ニーズが高まっている。一方で交通事故が減少傾向にある中、自転車対歩行者の交通事故は横ばいの状況であり、自転車の通行ルールの徹底を図るため、道路交通法の改正により、自転車の歩道通行可能要件の明確化や自転車運転による危険防止のための講習に関する規定等が整備された。また、登下校時における児童の交通事故防止等の安全対策が求められている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	A 改善傾向	指標「徒歩や自転車で道路を安心して移動できると思う人の割合」は、昨年に引き続き増加しており、実績値に変動があるものの増加傾向にある。また、指標「歩行者・自転車関連の事故件数」では、減少傾向にあり、昨年に引き続き目標値を下回っている。これは歩行者や自転車が安全に移動できる道路整備が着実に進められているためと考えられ、課題は改善されつつある。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	
次年度の改善計画	

＊＊＊